

特44

806

福神像辨之概畧

東京圖書館

新門一六函

一四部四架

二類七六號

7/5 9/6

014579-000-2

特44-806

福神像辨之概略

千家 尊福
秋山 光條 / 著

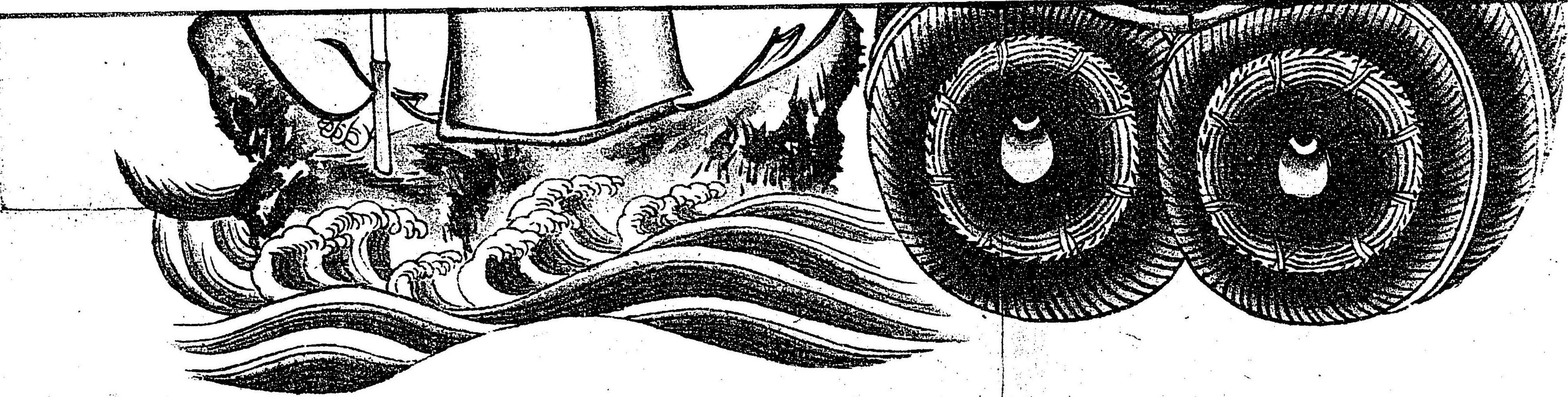
M10

ABB-0994



東來不
書籍
海國





福神像辨之

福神と稱へし圖の如き像を(上に摸せる)處の神以論じたる學者は世間より少くは釣瓶真信佛事編其他散見する説と世の出雲大社以直し大黒を心得たる人の鄙に以思ひしを俵は農事と勤め種藝以起し給後世に植といふものと一つと思ひて画上鼠の野意ありと云々此マカキヤウ以天堂として武神の牀一脚垂地毎將油紙拭黒色為形号曰莫訶別人の作為せるものれば則稱以同くして皆以前乃書しるも及えなまばいりて由りもさる由主三神なるの主と以事代主命以祭する其事代主神以惠美須の神といひしは此社御記に應永十六年六月廿五日元寇の時出雲あるべくや由縁ある御名以蒙ふ事ある例も大いに縁ありて覺ゆる然て岩に倚りて魚市人の厚く之以祭り又民間に以惠美須語之るに委しうらん其を以雲に之を今も人えたる顔と相似し故に朝日之と置け野蕃未開の教法より到底其蠢民のべし(伊勢熱田以初め止事なる神社の御せしに當時神道者流輩是以辨明するに立ちし流布せしむる其を右まねし御代はあまも大國主事代主御親子二彼伊勢の大麻領布の乱世に起るく永む迄もく己まを克く神習ひ天粟の福となり祖宗の遺業以完全し而して以国土の経営に尽し給ひ竟り天下治たりて天皇以護り給ふ故に八神殿

明治十年二月

像辨之概畧

像を(上に模せる)古来出雲に流布する處あり或は大同小異ありども
は世間より少くは其考も種々ありて委細ハ牽強に陥る一方正ハ理屈
散見する説と世の慣習や余輩が考と取束ぬて更ニ其大要を辨
と心得たる人の鄙に都多かる所なりとも一朝之事ならずは抑大
勤め種藝以起し給ひ御子神として天御領田の長仕へ奉らるる給へる
思ひて画に鼠の野火の危難以救ひ奉るなり古事に因みて画き
天竺より武神の長とも或は戦闘の神とも又ハ優婆塞の形以現とも
黒色為形号曰莫訶歌羅即大黒神也なり然るを延暦に頃僧最澄初
則稱以同くして質を異にする物と知るなり(一)惠美須ハ事代主神
いづれより由りたる由ある事なるべしと言ふれども三宮ハ神名式に津國菟
代主命以祭する趣あり楯津が考に元ハ事代主神以祭すと御祖神
の神といひしる此社以夷宮ともいひて夷神大國主神事代主神と心得て
廿五日元寇の時出雲大社震動流血云々又西宮荒夷宮震動の事見え
ハ蒙ふ事なる例も大穴持伊那西波伎神社大穴持海代日子神社など猶多く
然て岩に倚り魚釣する状ハ三穗碕より漁り玉へる故事に思ひ依せり
民間にハ惠美須講とて此神以祭るハ賣買に付て殊り偽詐する
出雲より人々も人々も饗應するを^笑顔とていひ左なるは^笑顔なり
小朝日之と置敷也とあり人の名は惠美といへども面貌の笑々に^笑た
る到底其蠢民の帰向する處以^さ指的の要具たるに過ざる也斯
止事あるは神社の御神躬又大洗磯碕の故事などの事ハ深き故由あり
輩是以辨明するに以知らぬ却り羨み習ひしる本教の明らるる
む其右まれば左も^さ貴ま神の御上とも猥に假像するに
事代主御親子二神の御代に至つて天下大開明に進み人民某
乱世に起るる水く行なると同く冥々の地に其功以存するも
神習ひ天粟の良性な任々拜神盡敬と怠れむ^や○余非
以完全して而して其功勳は顧負するに似く頭政以擧げたる之
給ひ竟り天下治者す^さ仕たるは因循せし御躬先つ八十聖
給ふ故にハ神殿に齋うきさせ給へ我社中の小子は斯旨以

明治十年二月二日版權免許

同年六月刻成

加布すも慶も、或ハ大同小異ありとも概して之ヲ論じ、或ハ繪を或
ありて委細ハ帝皇強ク陥リ方正ハ理屈ニ偏ラざる事ヲ以テ得と夫等と一々
平ガ考ト以テ取束めて更ニ其大要を辨へむと凡そ云々 ○大許久ハ大國
スルも一朝之ナキナラシムル以テ覺テ抑大許久ハ大國大己貴の神名以テ字
して天御領田の長ニ仕へ奉ラシム給へる事也此御功德表一又袋と画きた
救ひ奉りたりト古事に因みて画きと之且子の日と祭日ヲ致し来たり
鬪の神とも又ハ優婆塞の形以現しとも又ハ塚神以祭る事ありとも又義淨
神也云々あり然るを延曆此頃僧最澄初て之ヲ祭まるといふ其項より我
物と知ズ一 ○惠美須ハ事代主神も之其故ハ鈴屋翁説ハ大名持
言それとも西宮ハ神名式ハ津國菟原郡大國主西神社とあり日本地
方ハ元ハ事代主神以祭るト御祖神ヲませバ大國主神以祭る事
夷神大國主神事代主神と心得て三座とせるものなるべし云々同神
血云々又西宮荒夷宮震動の事又云々西宮ハ事代主神ハ坐すて幽
儀神社大穴持海代日子神社も猶多く又出雲國出雲郡(今ハ神門郡)神
穗碕も漁一玉へる故事と思ひ依せりもらむ出雲國三保神社も事代
祭るハ賣買ノ付る事殊チ偽詐多く手拍ち咲榮て神習ひ其業多く
を咲顔さかかほもらむといひ左も右も咲顔さかかほもらむといふも古記ハ云々なり古事
名ハ惠美といへども面貌の笑々に咲たる貴びもらむ古の意も
以テ指的さしあたの要具たりと過ぐる也斯れ事の本教ハ曾々無き
磯碕の故事などのは深キ故由あることなれば思ひ迷ふべし云々
て羨み習ひりとも本教の明らざるや滋々甚しく神道の道
神の御上とも猥ニ假像するは實ニ恐キ事ありあきども清々
至つて天下大ニ開明ニ進み人民蕃育の基以此時ニ開給へる神
同く冥々の地ニ其功以存するものといふも亦過言なりむや然
拜神盡敬と怠れむや ○余輩筆以擱くに臨み二神の御徳
顧負すこと外ニ顯政以擧げり之以皇ヲ養麻命ニ奉り後ハ猶
仕たり因循せり御躬先つ八十隈手に隱り給ひ大義のあ
とせ給へり我社中の小子ハ斯旨以辨認して謹テ敬禮すべし云々

免許

同年六月刺成

概して之を論じ或は繪を或は彫みて以て神棚に安き壁間より掛けて之
を飾らざるは其得と夫等と一々辨ふる時に則ち組て煩く由て今は口
にせんすなり ○大許久ハ大國主神なるべし其故ハ梅窓筆記ハ親長卿
ハ大國大己貴の神名以字音に大コク大コキと讀て混じたる也其玉
ハ御功徳以表し又袋と画きたるものあり因幡國ハ袋持と云ふは往
子の日と祭日や致し来たるものなり但大黒といふ文字ハ摩訶伽羅
ハ塚神以祭るなり又義浄ハ南海寄歸傳ハ西方の諸大寺咸於食厨
之以祭るといふ其頃より我大己貴命に附會しつる香のハ知らざ
る其故ハ鈴屋翁説ハ大名持事代主二神ハまことに家々に祭るべき神
郡大國主西神社とあり日本地誌提要に大己貴神也と載るをたは社
ませば大國主神以祭るるなり ○出雲國意宇郡山狹社ハ大夜之
王とせらるものなりまらるる同神兩名ハ叶を以て蛭子以我すといふ
西宮ハ事代主神に坐する幽冥といふ故ありつらに大國主大神と共ニ同
出雲國出雲郡(今ハ神門郡)神大穴持御子社以事代主神といふ傳あり
らむ出雲國三保神社ハ事代主神を祭るる此社以惠義須と稱して
拍ち咲榮て神習ひ其幸とて祈る意ぞえらるるなり ○王ニスとい
いつるも古記ハいなるべし古事記朝日之名みよかえの傳ハ咲榮也人
以貴びるるも古の意なるべき此謂よまらるる稱へ奉るつらなり
事の本教ハ曾て無し一事ハ起樹天津神籬及天津磐境
しちんべい思ひ迷ふべし)然しやむら世の漸く汚晦ハ際するや
さるや滋々甚しく神道の真面目ハ何の點ハ在るを識る事
ハ恐ハ事ハあきども清々思ハ亦幽ハ怒ハ玉ふ所あり然
月の基以此時ハ開給へる神徳以敬崇する人の心ハ自然腦部
といふも亦過言ならむや然しあきども文明乃世に生れて開化
筆以擱くに臨み二神の御徳を贅述して以て此編以終らむとす夫
以美麻命ハ奉り後ハ猶遺るる因以調いて永く幽冥ハ主宰
子に隱し給ひて大義のある處を示し父大神以諷し給へる御
誌して謹て敬禮すべし

出雲大社大宮司大教

出雲大社少宮司權少教

き壁間より掛けて之を崇奉と東奥西隅其慣を一其習以同し
梅窓筆記の親長卿記引て大國主以大黒とす久し事と見え
混じたる也其玉と持たる状ハ躬瑞之ハ阪瓊と披て皇孫よ奉り給ひて
袋持とありて往給ひし摸一槌ハ御武威以寫さむと加夫槌久夫
文字ハ摩訶伽羅と語を翻譯せり即ち摩訶と大と事伽羅
の諸大寺成於食厨柱側或大庫門前彫木表形或二尺三尺為神王狀坐
つる否の知らざれども世に在る慶の大黒とは小同大異し今この謂ひ
に家々に祭るべき神は坐も也然も工ミスは西宮の神と蛭兒とす
也と載らむたる社も實は式も一座ならん中世ハ荒夷宮としひく蛭
子郡山狹社ハ大夜之女神と祭まるに其男神擲御氣農命と祭まる類
蛭子也戎すも混ひて此三神と祭まるせざるもあらざるも猶い
大國主大神と共同御心御諭のありしを窺はるる
土神といふ傳ありに俗に毘沙門と唱へたり西宮也毘沙門と唱へる由
惠義須と稱して商人の多く参拜し又出雲地方の市場に在必惠義須
と云く工ミスといふは日説に啖為るとあるは神道名目類聚抄
の傳に啖栄也人の喜び啖ひ顔の栄ゆるまむべし朝日豊栄登
稱へ奉りつるや○抑字面以假用ぬ殊に偶像と造り出さる
籬及天津磐境之勅立靈時於鳥見山中まき神淺茅原等の
汚晦之際すや釋徒猥小神佛以混狡して人望を買ひ談法以弘
めつと識る事さ容易なるに至らば斯の福神像
正所あり然れもの○剖判以来伊邪那伊邪那美二神御代又
心々自然脳部は密著して幾く戦乱と経過し心敢く離散
世に生かして開化の民ならむもの斯像の如何論ずる迄も斯
神終らむとす夫大國主大神ハ忍耐剛毅の神性よ坐し能く艱
なく幽冥よ主宰し朝廷天下以護り給へり又事代主神ハ神功
以諷し給へり御孝心は炯々焉と一瞭なるや竟は百八十

大宮司大教正千家尊福
少官司權少教正秋山光條

同迹

出雲大社々務所

其西隅其慣を一一其習以同くせり而して其祭
玉勝間静岩屋鈴屋答問録出雲國式社考倍説并玉
一或大黒とすも久しき事と見えしと云今も尚
之ハ阪瓊と披て皇孫よ奉り給ひて隱身とあり給ふ
御武威成寫さむとて加夫捷久夫捷等の名目成
るも即ち摩訶といふ大とて事伽羅といふ黒や
別彫木表形或二尺三尺為神王状坐把金囊却踞小
女の大黒といふ小同大異といふ今の謂ゆる福神像ハ更
も工ミスレ西宮の神とて蛭兒とす事ハ五六百年
座るれども中世ハ荒夷宮といひて蛭子大國主事代
具男神櫛御氣農命とも祭まゝる類猶多かりとて
祭まゝるやせざるもなあらざるも猶いふ後宗光院乃
唱へたり西宮成り毘沙門と唱へたり由伊呂波字類抄に
又出雲地方の市場に在必と惠美須宮といふ成築ま
為りてあり成神道名目類聚抄に信らまぬ由
の崇ゆりなまむべし朝日豊栄登れま向人の咲栄
取用ぬ殊に偶像と造り出さる成拜むといは固り
鳥見山中まゝ神淺茅原等の段をりて知れ
混狹して人望と買ひ該法成弘むる手段と為
るに至りてまた斯の福神像も蓋し如此成
以来伊邪那伊邪那義二神御代又須佐之男命乃
く戦乱と経過し心敢て離散する事なきハ
斯像の如何論する迄も斯像の示的を頼
念耐剛毅の神性は堅く艱難と變りて慶
以護り給へり又事代主神ハ神功成輔佐して力
とて一々瞭なれや竟に百八十神の御尾先と

同迹

出雲大社々務所蔵版

定價十錢

